

第4章 多賀城市の景観の特徴

自然的な条件や歴史、土地利用の現状等から本市の景観は次のような特徴（「多賀城らしさ」）があります。

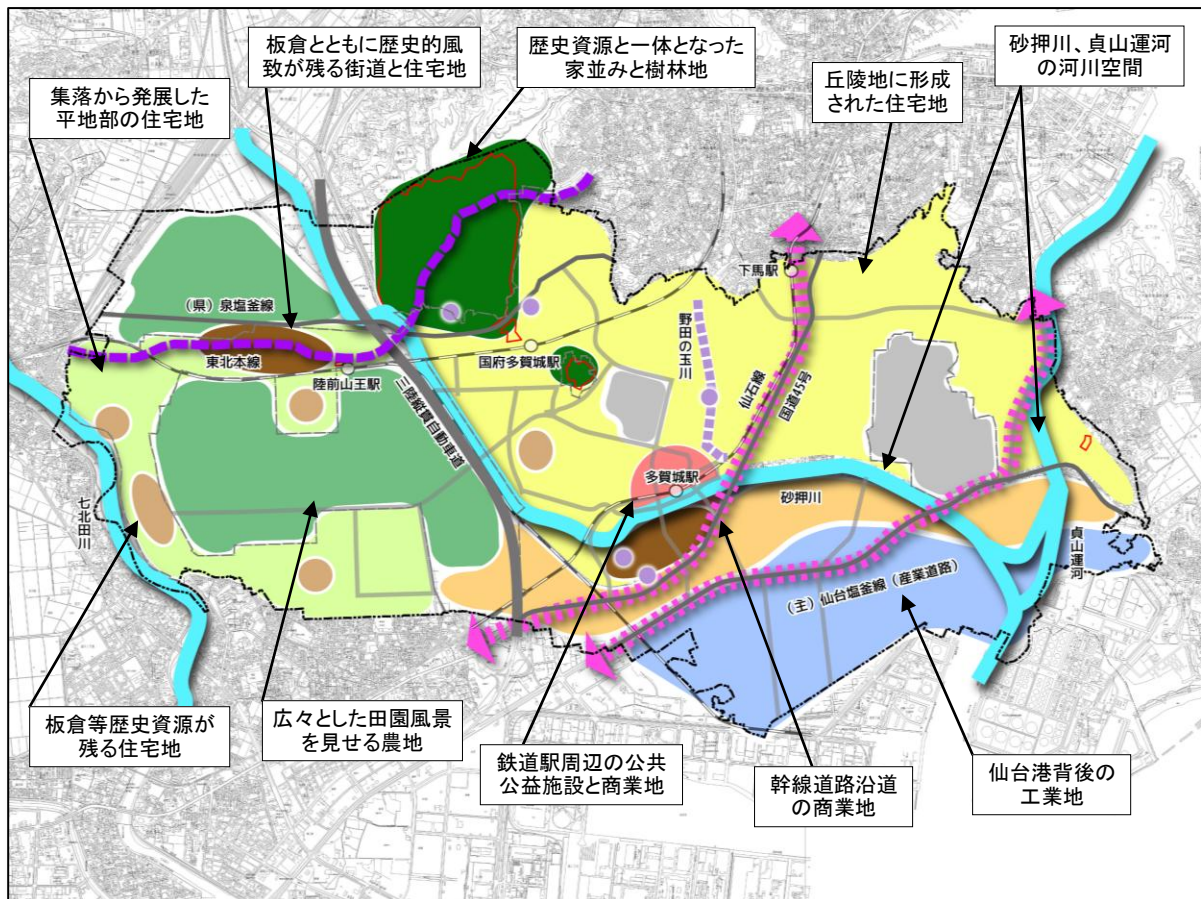
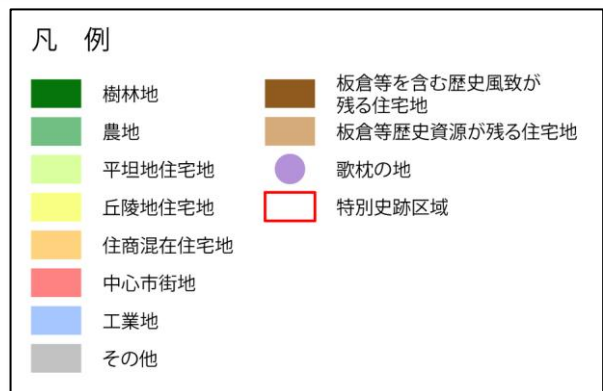


図 多賀城市の景観の特徴「多賀城らしさ」



(1) 古代多賀城を象徴とする歴史景観

本市には、天然の良港塩釜湾に程近く仙台平野を一望できるという立地を活かし、奈良時代に多賀城が設けられました。多賀城は、神亀元年（724）大野東人によって創建され、11世紀の中頃に終焉を迎えるまで、古代東北地方の政治・軍事の中心としての役割を果たしました。多賀城跡は、大正11年（1922）多賀城廃寺跡とともに「多賀城跡附寺跡」として国の史跡に指定され、昭和41年には特別史跡に昇格しています。その後、館前遺跡、多賀城南面地域、柏木遺跡、山王遺跡千刈田地区が追加指定されています。現在、これらは豊かな緑とともに保存され、本市の象徴となる歴史景観を形成しています。

また、八幡地区の末の松山、沖の井などの歌枕は、地域固有の歴史資源として、地元住民に守り続けられ、時代を越えて慕われてきました。

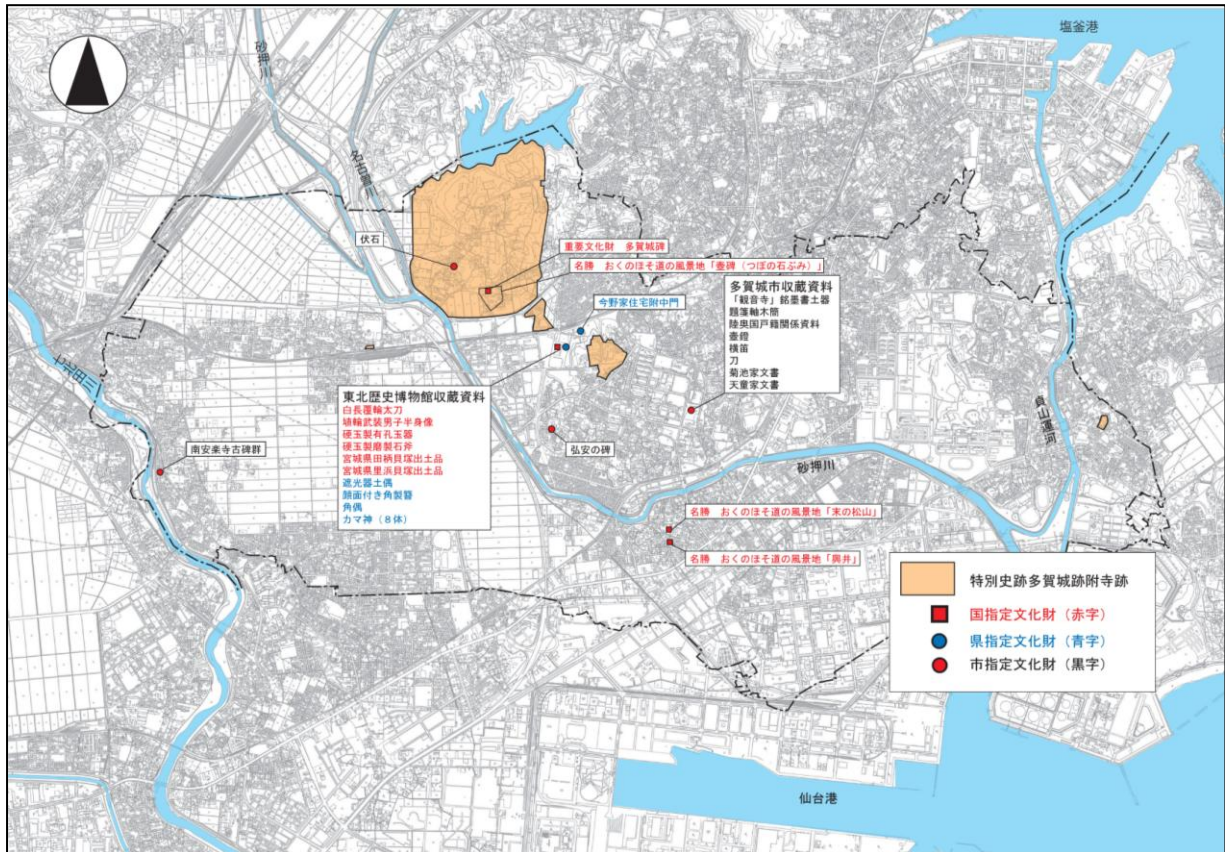


図 文化財指定状況

(2) 田園と小丘陵が織りなす自然景観

本市の地形は、北東部の丘陵部と沖積地^{ちゅうせきち}※1（低地）により構成されています。約1万年前の縄文時代には、海水面が上昇し、海岸線は陸側へ入り込み最大で利府、岩切付近まで到達しました。そのため沖積地は太平洋に面した内湾（入り江）になっており、縄文人たちの格好の漁場でした。この内湾は5千～4千5百年前に形成された南北に延びる浜堤^{ひんてい}※2によって閉ざされた潟湖^{せきこ}※3となりました。潟湖の位置は時間が経つにつれて、徐々に海側へと縮小しました。

現在、砂押川右岸は、宮城野海岸平野と呼ばれる広大な沖積平野の北端部にあたり、田園地帯を形成しています。一方、丘陵部の高台は松島丘陵の端部の小丘陵^{せうせうりやう}※4として入り組んだ形を成し、坂や斜面といった複雑な地形が今も変わらずに残っています。

西部の広がりある田園景観と斜面に豊かな樹林を残す丘陵の景観が、政庁などの保存樹木^{ぼんぞんじゆもく}※5の緑と相まって本市の特徴的な自然的景観を形成しています。

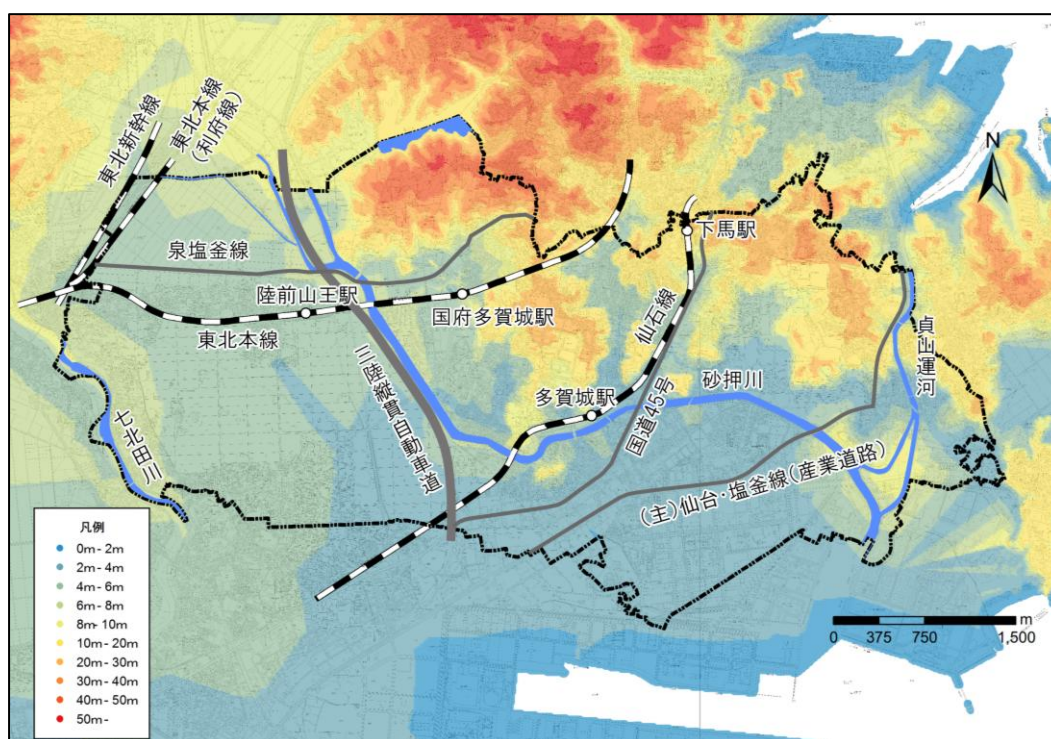


図 標高図

- ※1 沖積地： 主に河川が運んでくる土砂が、下流の流速の減少により、氾濫原や河口、海岸から沖合にかけて堆積作用によって形成される平野のことをいいます。
- ※2 浜堤^{ひんてい}： 海岸線の砂浜で波に洗われたり、砂が移動して形成される砂の高まりのことで、海岸線近くで生じますが、土地の隆起、沈降などにより水域から離れ、内陸に残されることがあります。
- ※3 潟湖^{せきこ}： 海の一部が外海と隔てられてできた浅い湖
- ※4 小丘陵： 本市の地形は、砂押川の北が標高 50m未滿の松島丘陵と呼ばれ、南の仙台平野と大きく分かれており、内陸側の沖積平野に松島丘陵から派生した起伏に富んだ樹林帯が島状の高台となって点在する特徴をもちます。
- ※5 保存樹木： 「多賀城市樹木の保存に関する要綱」により健全かつ樹容が大きく美観に優れた樹木を所有者の同意のもとに指定しているもので、現在、16本が指定されています。

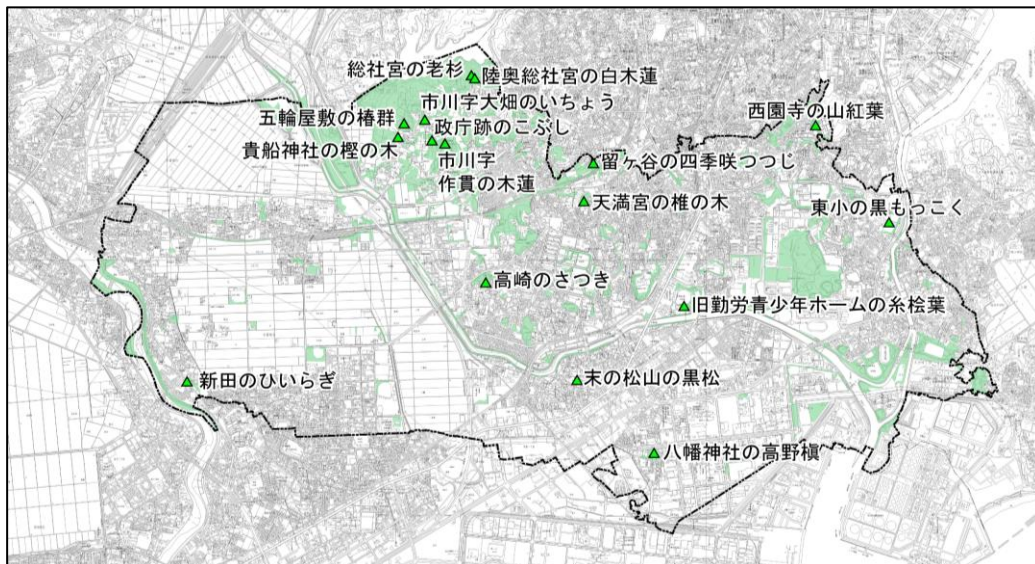


図 樹林地と保存樹木の分布

(3) 砂押川から貞山運河につながる生態系豊かな水辺景観

市域の北西から中心部を通り南東へと縦断し、仙台港に流れ込む砂押川のほか、東端には砂押川とつながる貞山運河が、西端には仙台市との境になる七北田川が流れています。

本市の河川景観の特徴は、住宅が立ち並ぶ市街地のなかで、河川堤防沿いに春には菜の花や桜が咲き誇り、夏には緑があふれ、秋には河川敷のススキと周辺の木々の紅葉が美しく、冬には白鳥や鴨などの渡り鳥が飛来するなど、季節感あふれる自然が身近に感じられ、生態系豊かな市街地景観が見られるということです。

市域北側には県内最大のため池である加瀬沼があり、岸辺に立つと目の前には静かな水面（みなも）が広がり、周辺の丘陵地の緑と一体となって、水と緑が視界にあふれる景観を形成しています。加瀬沼にも多くの野鳥が飛来し、水面に賑わいを見せています。

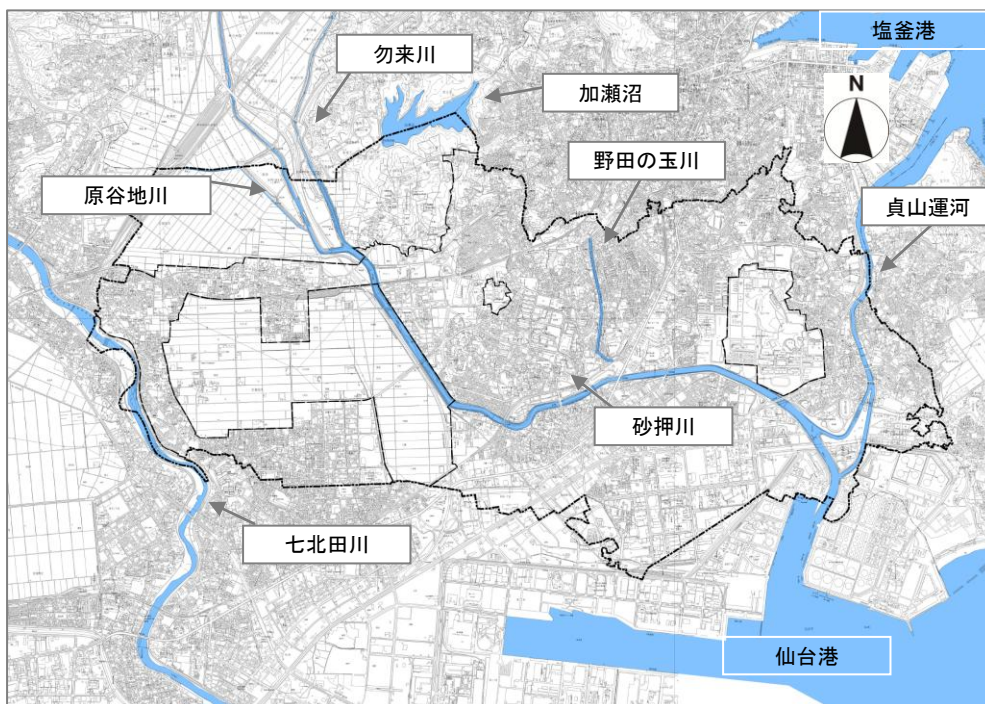


図 河川、水辺の現況

(4) 農地と調和した平地部の広がりのある住宅地景観

市域西側の平地部には、広く良好な農地と調和した、低層の建物を主とした落ち着いた住宅地が形成されています。この地域は、藩政時代に形成された農村集落から発展したものであり、特に鹽竈神社に向かう塩竈街道沿いの地域などに藩政時代から昭和初期に造られた板倉や土蔵が残り母屋や庭園、周辺の農地と一体となって農村集落に見る歴史を感じる景観を形成しています。

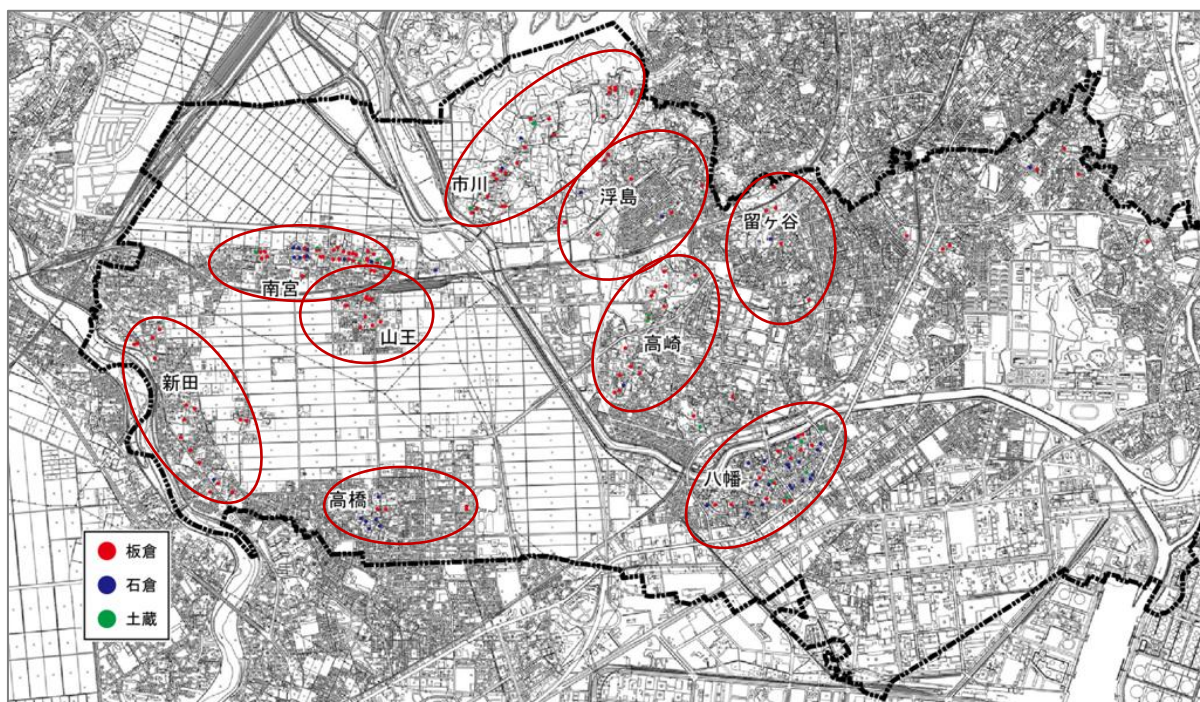


図 歴史的な板倉、石倉、土蔵の分布（歴史的風致維持向上計画より転載）



板倉



土蔵

(5) 地形の起伏が特徴づける丘陵地の住宅地景観

砂押川の東側及び北側は、鉄道、幹線道路の交通利便性の高さから、仙台近郊の都市として住宅地が整備されてきました。この地域は、丘陵地が入り組んだ特徴的な地形を有しており、高台の尾根から見下ろす住宅地景観や、谷合から見上げる斜面地の住宅地景観はこの地域の特徴的な景観となっています。



丘陵地の住宅地景観（中央）

(6) 鉄道駅周辺や幹線道路沿道の賑わい景観

JR仙石線の駅周辺や国道45号、主要地方道仙台・塩釜線（産業道路）等の沿道は、交通利便性の高い地域で、人と車の往来が多く、飲食店や大型量販店、ホテル等の商業施設が集積し、賑わいのある都市景観を形成しています。



国道45号の賑わいのある景観

(7) 仙台港の背後に広がる工業地景観

市域南東部の仙台港に接する地域は、大規模な工場や流通施設が立地し、本市の産業の中心となっています。また、沿道の街路樹や工場等の敷地内の緑地が地域全体に潤いを与えています。

東日本大震災では、津波により工場等の施設が大きな被害を受け、産業活動の支障となりましたが、震災後の産業復興が進むなかで、緑が戻ってきています。



仙台港背後地の景観